

第 12 回 デフリンピック運営委員会 (議事概要)

1 開催日時

2025 年 10 月 31 日(金) 16 時 00 分から 17 時 30 分まで

2 開催場所

戸山サンライズ 全国障害者総合福祉センター 2階大会議室

3 構成員等

○委員(構成員)

委員長 久松 三二(一般財団法人全日本ろうあ連盟 常任理事)
副委員長 薬師寺 道代(医師)
石原 保志(国立大学法人 筑波技術大学 学長)
延與 桂(公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 会長)
小椋 武夫(一般社団法人山梨県聴覚障害者協会 事務所長)
松橋 早友梨(デフリンピック選手)
渡邊 知秀(東京都スポーツ推進本部長)
畑中 淳子(弁護士) ※欠席

○事務局

倉野 直紀(一般財団法人全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会 事務局長)

4 要旨

【事務局 説明】

- ・6月の第 11 回運営委員会では、皆様に 2025 年度予算案についてご承認をいただいた。
- ・本日は、国際手話通訳者及び手話言語通訳者の養成等について、順次ご報告をさせていただきます。

【議事進行】

(久松委員長)

- ・それではこれより次第に基づき報告に入る。

○報告(1)第6回コンプライアンス委員会について

(久松委員長)

- ・まず、第 6 回コンプライアンス委員会について、倉野事務局長より報告させていただきます。

(倉野事務局長)

- ・コンプライアンス委員会は、運営委員会のコンプライアンスの推進に係る重要な方針の策定や啓発、連盟理事、監事及び運営委員会の運営委員、運営委員会事務局職員のコンプライアンス違反への対応について、運営委員会の諮問に対し審議し、意見を具申するものである。
- ・10 月 27 日に第6回コンプライアンス委員会を開催し、2025 年度コンプライアンス推進計画の上半期達成状況について審議や報告を行った。

- ・主な審議事項は、「2025 年度コンプライアンス推進計画の上半期達成状況」であり、上半期の遂行状況について問題ないこと、下半期については計画変更の必要性がないことを確認・承認された。
- ・報告事項については、「コンプライアンス研修の実施について」、「スポーツ庁指針に係るセルフチェックリスト」及び「東京都ガイドラインへの取組状況」、「第3回三様監査体制意見交換会の実施」である。
- ・コンプライアンス研修の実施については、役職員等を対象に実施したコンプライアンス研修についての実施状況の報告を行った。
- ・スポーツ庁指針に係るセルフチェックリスト及び東京都ガイドラインへの取組状況は、達成率がいずれとも 100%となった。
- ・第3回三様監査体制意見交換会の実施については、連盟監事や公認会計士、運営委員会事務局監査担当で、2024 年度内部監査報告会や 2025 年度内部監査計画について意見交換を実施し、より一層ガバナンス・コンプライアンスを遵守した業務を遂行していくことを確認したことの報告を行った。
- ・次回開催は3月末を予定している。引き続きコンプライアンスの遵守に取り組んでいく。

○報告(2)第7回及び第8回利益相反管理委員会について

(久松委員長)

- ・次に、第7回及び第8回利益相反管理委員会について、倉野事務局長より報告させていただく。

(倉野事務局長)

- ・利益相反管理委員会は、運営委員会の事業活動における取引の公正性や信頼性を確保するため、連盟理事、監事及び運営委員会の運営委員、運営委員会事務局職員の利益相反関係を審査するものである。
- ・7月 29 日に第7回利益相反管理委員会を開催し、役職員等からの利益相反自己申告書の審査及び利益相反管理チェックシートの確認について、審議を行った。
- ・主な審議事項は、利益相反自己申告書の確認と利益相反管理チェックシートの確認についてである。
- ・利益相反自己申告書の確認については、新任の役職員等から提出された自己申告書を審査し、利益相反事項がないことを確認・承認された。
- ・利益相反管理チェックシートの確認については、役職員等から提出された 2025 年度第1四半期分利益相反管理チェックシートを審査し、全件利益相反やチェック箇所の内容に問題がないことを確認・承認された。
- ・報告事項は利益相反管理研修の実施についてであり、役職員等を対象に実施した利益相反管理研修について実施状況の報告を行った。
- ・また、10 月8日に第8回利益相反管理委員会を開催し、役職員等から提出された 2025 年度第2四半期分利益相反管理チェックシートを審査し、全件利益相反やチェック箇所の内容に問題がないことを確認・承認された。

○報告(3)国際手話通訳者及び手話言語通訳者の養成等について

(久松委員長)

- ・次に、国際手話通訳者及び手話言語通訳者の養成等について、倉野事務局長より報告させてい

ただく。

(倉野事務局長)

- ・東京 2025 デフリンピックでは、国際手話通訳者と日本手話言語通訳者とのペアによる協働で通訳を進めることとし、必要な人材の養成を進めてきた。
- ・まず、2023 年度から全日本ろうあ連盟国際委員会は東京 2025 デフリンピックに向けた登録国際手話通訳者試験を行った。
- ・これは、大会開催に向け、ICSD やその他国際機関などとの協議の場において必要となる国際手話通訳者を確保するため、国際大会又は国際会議での国際手話通訳経験者等を対象に登録試験を実施したものである。
- ・そして、東京 2025 デフリンピックに向けた国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者養成研修会は、大会に必要な国際手話通訳人材のさらなる確保のため、デフリンピックに関する基礎知識、協働通訳・リレー通訳の理念の習得などを目的として実施したものである。
- ・2024 年6月～11 月と 2025 年1月～3月の2回開催し、履修時間は国際手話通訳者 50 時間、日本手話言語通訳者 34 時間である。
- ・また、大会に向けて更なるスキルアップのため、国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者養成スキルアップ研修会を行った。
- ・世界手話言語通訳者協会の協力のもと、協働通訳技術のさらなるスキルアップと、大会・競技専門用語の習得などを目的として、2025 年6月に協働通訳研修、2025 年5月から8月に競技別研修を行った。
- ・履修時間は国際手話通訳者 24 時間、日本手話言語通訳者 24 時間である。
- ・これらにより養成した人材を大会の国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者として推薦した。
- ・国際手話通訳者約 100 名、日本手話言語通訳者約 140 名、あわせて 240 名程度が活動予定である。
- ・主な活動場面は、競技会場等での通訳や開閉会式会場での通訳、デフリンピックスクエアでの通訳を予定している。

○(参考説明)全国キャラバン活動について

(久松委員長)

- ・次に、全国キャラバン活動について、倉野事務局長より説明させていただく。

(倉野事務局長)

- ・スポーツ庁では、東京 2025 デフリンピックを契機としたデフスポーツの機運醸成に向けた取組によりスポーツを通じた共生社会の実現を図るため、令和6年度補正予算を確保した。全日本ろうあ連盟ではこの予算を活用し、全国キャラバン活動としてデフスポーツの体験等を含めたイベント等を実施した。なお、計画及び実施報告については、「TOKYO 2025 DEAFLEMPICS」特設サイトに随時掲載している。
- ・全国キャラバン活動の目的は、東京 2025 デフリンピックの認知度向上及び気運醸成、手話言語やろう者の文化の発信・理解促進、多様性と共生社会(SDGs)の推進、日本代表選手や各国選手への応援を全国から届けることとした。
- ・事業は、イベントキャラバン、学校キャラバン、キャラバンカー巡回となっており、2025 年3月から 2025 年 11 月 14 日まで実施する。
- ・まず、イベントキャラバンの詳細について説明する。

- ・イベントキャラバンは、デフスポーツやデフリンピック、共生社会の啓発促進を図るため、全国 47 都道府県及び大都市の大規模集客施設や自治体、競技団体等の大規模イベント等にて、イベントを実施するものである。
- ・10月2日時点で実施件数は77か所、そのうち60か所はすでに実施済みである。
- ・実施内容は、東京2025大会やデフスポーツの紹介パネルやバナースタンドの展示、デフアスリート等によるトークショーなどのステージイベント、デフスポーツ体験、手話言語や国際手話の体験などである。
- ・次に、学校キャラバンについて説明する。
- ・学校キャラバンとは、小中学校、ろう学校を含む特別支援学校を対象に、学校からの依頼に基づきデフアスリートや手話言語指導講師等を派遣するものである。
- ・実施にあたり、プログラム実施に係る費用について、一部を連盟が負担する。その内容は講師謝礼金1校あたり交通費込み、源泉徴収税込みで1時間 20,000 円×1名、手話言語通訳者の手配に係る経費1校あたり1時間 10,000 円×2名としている。
- ・2025年4月より募集を開始し、9月時点で予定していた上限50回を上回る申込みがあり、受付は終了した。
- ・その内訳は小学校26件、中学校10件、ろう学校及び特別支援学校14件で体験者数は約5,400名となった。
- ・また、きこえる子ども向け、きこえない・きこえにくい子ども向けの2種類のパンフレットを作成し、事前・事後学習で活用できるよう、体験授業を実施する学校に配布した。
- ・次にキャラバンカー巡回について説明する。
- ・ピンク色を基調とした大会PRカーの2台を仕立て、北回りと南回りで全国を巡回するものである。
- ・北回りの車は、6月14日より岩手県から21道県を回り、11月8日に東京都に到着、11月13日まで都内を巡回、その後Jヴィレッジに展示予定である。
- ・南回りの車は6月19日より大分県から25府県を回り、10月27日に東京都に到着、11月14日まで都内を巡回、その後デフリンピックスクエアに展示予定である。
- ・実施にあたり、各県内の巡回コースの選定、巡回地の行政への働きかけ、巡回に合わせたイベント等の企画、キャラバンカーの運転等は、都道府県聴覚障害者協会に委託し、リレー方式で最終地点の東京までをつないでいくこととした。

○(参考説明)全国ろう学校の競技観戦について

(倉野事務局長)

- ・追加で1点、資料にはないが参考としてご説明する。
- ・全日本ろうあ連盟では、大会期間中の子どもたちの観戦について、全国のろう学校に希望を募った。
- ・2月頃に行った事前調査では14校の希望があり、それを受けて改めて6月に正式に募集した結果、18校からの希望があった。
- ・この18校に対して、観戦希望の競技や日時を調査し、9月末頃に各学校に決定通知を行った。
- ・人数としては、児童・生徒、引率者あわせて約850名の申込みがあった。
- ・連盟の役員なども観戦のサポートをすることを予定している。

○報告(4)大会への子供の参画について

(久松委員長)

- ・次に、大会への子供の参画について、清水部長より報告させていただく。

(清水部長)

- ・東京都は、子供たちがスポーツの素晴らしさや共生社会の大切さ等を学び、成長することをサポートできるよう、大会への子供参画の取組を実施する。
- ・1つ目は「子供の競技観戦・体験活動事業」で、都内の小中高特別支援学校を対象として、学校の希望により、競技観戦もしくは体験活動を選択し実施する。
- ・いずれの場合でも、学校での事前学習等に活用できる教材を提供する。
- ・競技観戦の当日は、サインエールでの応援、UC 技術の紹介なども行う。体験活動は、デフリンピックスクエアで、スタートランプなどを体験してもらう。
- ・なお、都内だけでなく、被災地4県の子供たちも都内の競技観戦に招待する。
- ・2つ目は、ろう学校の子供たちの特別な参画である。
- ・具体的には、選手入場時のハイタッチやエスコート、表彰式の運営補助として副賞トレイベアラーとして参画する機会を提供する。
- ・都内の全6校の子供たちに加えて、被災地の石川県のろう学校にも参加いただく予定である。

○報告(5)デフリンピック気運醸成に係る大会直前・大会時の都の主な取組について

(久松委員長)

- ・次に、デフリンピック気運醸成に係る大会直前・大会時の都の主な取組について、清水部長より報告させていただく。

(清水部長)

- ・大会直前期には、より多くの人たちに会場に足を運んでもらえるよう、多様な広報施策を展開し、大会本番時には、様々な関係者と連携して、選手の活躍や大会の盛り上げを後押ししていく。
- ・大会直前期の主な取組として、年間を通じたイベントへのブース出展に加え、大会までの日数を表示したモニュメントを活用し、会場自治体を巡るカウントダウンツアーを実施している。
- ・10月1日から、都庁2階において、デフリンピックPRコーナーを開始した。
- ・10月3日には、東京ゆかりのデフアスリートの応援サイトを開設、大会1か月前となる10月15日には、アスリート等を招いて大会1か月前イベントを実施した。
- ・10月下旬からは、都庁プロジェクションマッピングをはじめ、交通広告やSNS、雑誌など多様な媒体により広報プロモーションを展開している。広報東京都11月号には特集記事を掲載する。
- ・11月5日には連盟、事業団と協力し、メディアを対象にプレスセミナーを実施予定である。
- ・大会時には、都庁デフリンピックPRコーナーにおいて、日本選手の情報を発信するとともに、「サインエール応援団」を結成し、日本戦やメダルセッション等においてサインエールで選手を応援する。
- ・また、駒沢オリンピック公園において、アスリートとの交流やデフスポーツ・パラスポーツの体験などが楽しめる「スポーツ FUN PARK」を開催する。

○報告(6)ユニバーサルコミュニケーションの促進に係る大会時の都の取組について

(久松委員長)

- ・次に、ユニバーサルコミュニケーションの促進に係る大会時の都の取組について、清水部長より報

告させていただきます。

(清水部長)

- これまで、各種イベントや展示会などにおいて UC 技術を展示・PR、各種競技会等で技術実証を行ってきた。大会本番では、UC 技術を多様な場面で活用、PR を通じ技術の社会実装につなげ、大会の確かなレガシーとしていく。
- 競技会場では、サイネージ等を活用し、選手・関係者の円滑なコミュニケーションをサポートするほか、競技音をオノマトペや振動で体験する、競技解説等をスマートグラスで見るなど、最新技術で誰もが「音を見る」「音を感じる」競技観戦の機会を提供する。
- デフリンピックスクエアにおいては、「Sure Talk」など最新技術の展示や PR を行う。「Edo Tokyo」の魅力を発信するスペシャルコンテンツも用意する。
- 街なかでは、国内外から多くの選手・観客が集う大会の機会を捉え、都立・民間施設と連携し、UC 技術等の活用を通じて、東京の更なるアクセシビリティ向上につなげるムーブメント、「オールウェルカム TOKYO～デフスペシャル～」を展開する。

○報告(7)選手団のエントリーについて

(久松委員長)

- 次に、選手団のエントリーについて、北島部長より報告させていただきます。

(北島部長)

- 今大会の参加選手数、参加国・地域数であるが、10月28日時点で、3,081選手が80の国・地域から参加予定となっている。選手数については、10月15日に最終エントリーを締め切り、各競技のエントリーシートを各競技担当者がSDと直接話をして確認した数字である。ただ、現時点でエントリー結果を精査しきれていないため、実際に来る選手数についてはこれから確認する。
- 選手団については5,000人弱くらい、競技役員などの大会を運営するスタッフは1,000人くらいで、あわせて約6,000人のため、当初の予定どおりの規模感で実施できるのではないかと思う。
- 参加選手数でセッション数が決まってくるが、選手数はまだ確定ではないため、セッション数は今後も変わっていくと思われる。現時点では21競技209種目の実施を予定している。最終エントリーを踏まえ、陸上女子3000m障害、陸上男子10000m競歩、男子空手団体形、オリエンテーリング女子リレーの4種目が中止となった。

○報告(8)選手への対応について

(久松委員長)

- 次に、選手への対応について、北島部長より報告させていただきます。

(北島部長)

- まず、各国選手団の宿泊予約状況について説明する。
- 公式旅行代理店を通じて宿泊予約の確認が取れているのは約4,200人くらいである。この4,200人は、名簿およびホテルまですべて確認できている。このほかについては、今後どうやってフォローしていくかを各国に対してアプローチしているところである。
- 次に、選手・関係者向けのサービスについて説明する。
- バスなどの輸送のほかに、公式代理店を通じて泊まっていた場合にサービスデスクを設け、なにかトラブルがあった時の対応等も含めてホテル側でも窓口対応を実施する。
- 宿泊日数に応じた無料ランドリーチケットを配布する。プラスアルファで使いたい場合には、実費を

払えばサービスを利用することもできる。

- UC 技術を体験してもらいたいということで、ソフトバンク社の提供で、11 月末まで通信量無制限で使える SIM カードを Android 用と iPhone 用の2種類用意している。選手一人一人がデータを気にせず UC 技術を使うほかに、自国の方と連絡を取る際等にも使っていただけるのではと思う。
- 各会場では、バナナや総菜パン、エナジーバー、飲料などの補食を提供する。選手たちが軽食を取りたい場合に十分対応できるくらいの量は用意している。
- 競技が早朝から始まる等で、ホテルで朝食を取れない選手に対するフォローについて、会場へケータリングしたり、近くに飲食店がない会場ではキッチンカーを手配したりなどして、きめ細やかなサービスを用意している。
- 最後に、選手団への輸送サービスについて説明する。
- こちらのオペレーションの範疇に入っていれば、基本的には各宿泊施設～競技会場間をバスで移動できることになっている。こちらのオペレーションの範疇に入っていない場合でも、その中に入っていれば同じサービスを受けられる。例えば、各自で手配した宿泊施設からデフリンピックスクエアに来ていただければ、そこからバスに乗って競技会場に行くことができる。このことについて、現在も周知はしているが、大会期間中も団長会議等で説明していく。
- 以上のことから、よく苦情がある輸送、飲食、ランドリーの3つについては特にきめ細やかなサービスを提供できるよう準備している。
- 輸送サービスについて、今回、耳がきこえない、きこえにくい方が一度に移動するということで、都内遠方会場や地方会場のバスには運転手以外の運行管理者が同乗し、車内での選手サポートを行う。
- 地方会場(福島・静岡)とデフリンピックスクエアを結ぶ輸送を提供し、都内での競技観戦やデフリンピックスクエアでの催しを体験できるように、バスを用意する。
- トヨタ社から提供された乗用車 100 台を、少人数の輸送やバスに乗り遅れた際などの緊急車両として活用することで、より確実な選手輸送を実現する。

○報告(9)観客への対応について

(久松委員長)

- 次に、観客への対応について、板倉部長より報告させていただく。

(板倉部長)

- 観戦に向けた情報発信として、大会時に、目的に沿って必要な情報に速やかにアクセスできるよう、大会ホームページに特設ページを追加する。
- 特設ページは、①競技観戦ガイド ②競技日程 ③対戦の組み合わせと競技結果 ④競技動画配信(YouTube) ⑤ハイライト映像 ⑥会場の混雑状況 ⑦デフリンピックスクエア の各コンテンツにトップページからワンクリックで遷移できるように作成している。
- 次に、競技観戦ガイドだが、10 月 17 日にホームページに掲載した。大会概要、デフリンピックスクエア、実施競技一覧、実施会場一覧、競技日程、来場に当たってのご案内、各競技紹介、協賛広告等を掲載している。
- 次に観客用リストバンドについて説明する。
- 各競技会場において、大会エンブレムのモチーフである「桜の花弁」を取り入れた、限定オリジナルリストバンドを来場者に配布し、来場者数の把握にも活用するものである。
- リストバンドには競技名が記載され、競技ごとに異なるカラーでデザインを行うことで、会場ごとのオ

リジナリティを表現している。

- ・また、リストバンドには QR コードを印字し、スマートフォンを用いて競技観戦ガイドへ容易にアクセスできるようにしている。
- ・なお、大会全体の想定観客数は、約 10 万人としている。
- ・次に会場装飾(ルック)だが、桜色を基調とした大会ロゴバナーとのぼりを配置し、選手や観客を出迎える。バナーやのぼりだけでなく、会場によっては階段や入口の看板にもデザインすることで、より視覚的に訴えるような装飾をする予定である。

○報告(10)メディア関係について

(久松委員長)

- ・次に、メディア関係について、板倉部長より報告させていただく。

(板倉部長)

- ・メディアからの申込状況について、10月17日時点で、IDカード申請が国内:182社 2,309名、海外:16社 54名と非常に多くの申込みをいただいている。
- ・競技の状況を10分以上放送する場合の放映希望申請は、国内:10社、海外:1社から申込みをいただいている。
- ・YouTube 配信の映像を使用して報道等する場合の映像使用希望申請は、国内:36社、海外6社から申込みをいただいている。
- ・次にメディアガイドだが、メディアが取材活動を円滑に行えるように各競技会場の撮影エリアやインタビューエリアの運用についてご案内をまとめている。運営サイドからメディアに取り上げていただきたい情報も盛り込んでいる。今週にホームページへアップしメディアへお知らせする予定である。
- ・最後にメディア向けの情報発信だが、大会期間中は公式の記者会見を3回実施する予定である。
- ・第1回記者会見は、11月14日(金)13:30~14:30にデフリンピックスクエア小ホールで行い、主催者等の挨拶、協賛企業によるプレゼンテーションを予定している。その後、プレス説明会を11月17日(月)10:30~12:00に予定している。
- ・次に第2回記者会見は、11月20日(木)10:30~12:00にデフリンピックスクエア記者会見場で、大会運営について(中間総括)、大会アンバサダーの活動についてお話しいただく予定である。
- ・最後に、第3回記者会見は、閉会式がある11月26日(水)11:00~12:30にデフリンピックスクエア記者会見場で、大会の総括を行う。

○報告(11)開閉会式について

(久松委員長)

- ・次に、開閉会式について、小澤部長より報告させていただく。

(小澤部長)

- ・東京体育館にて、11月15日に開会式、11月26日に閉会式を実施予定である。プログラムは資料のとおりで、プロトコルの規約に定められている内容を実施する。
- ・主な出演についてだが、本式典は、きこえない演出家の大橋弘枝氏、きこえる演出家の近藤良平氏の2名の演出家を起用している。このお二人については、開閉会式のアーティスティックプログラムに出演していただく予定となっている。
- ・また、国旗などのフラッグベアラーや選手団行進のプラカードについては、地元やろう学校の子供たちが参加予定である。またアーティスティックプログラムでは、公募で選ばれた一般の方が参

加するなど、多くの皆様でつくりあげる式典となっている。

○報告(12)デフリンピックスクエアについて

(久松委員長)

- ・次に、デフリンピックスクエアについて、北島部長より報告させていただく。

(北島部長)

- ・資料にあるとおり様々なコンテンツがあるが、選手たちの交流やろう者文化の発信を積極的に行うと同時に、海外選手に日本文化を体験していただくことができる。
- ・スポーツ棟は公式練習会場として使うが、子供たちの競技体験で使うなど様々な形で来場者が楽しめるような取組を準備している。
- ・センター棟の3階にある「DEAF SPORTS HOUSE」は、デフリンピックの100年の歴史や日本のアスリートなどを紹介することで、デフアスリートやデフスポーツについて改めて皆様に知っていただくような場所となっている。広く皆様に訪れていただきたいと思います。
- ・デフリンピックスクエア内で実施するスタンプラリーでは、「手話で伝える」や「デフリンピックについて学ぶ」など様々なテーマを設けている。全てのスタンプを集めると、オリジナル缶バッジのプレゼントがあり、子供たちにも色々な形で参加し楽しんでもらえるような取組を実施する。
- ・様々なものを準備しているため、ぜひお越しいただいて体験いただきたい。

○報告(13)メダルデザイン等について

(久松委員長)

- ・次に、メダルデザイン等について、北島部長より報告させていただく。

(北島部長)

- ・本デザインは、8万人を超える小中高生が投票して決定したものである。
- ・これに関しても、今大会に多くの方々が参加しているということのひとつだと思う。
- ・表面が折り鶴、裏面がいくつもの線がまじりあい世界の人とのつながりを表したデザインということで、子供たちも非常に楽しみにしていると思う。

○報告(14)協賛について

(久松委員長)

- ・次に、協賛について、板倉部長より報告させていただく。

(板倉部長)

- ・東京2025デフリンピックへの協賛は9月30日をもって受付を終了した。トータルサポートメンバー94者、ゲームズサポートメンバー52者、みるTechサポートメンバー21者の合計160者(カテゴリの重複あり)と契約締結を実施している。
- ・今回、金銭だけでなくVIK(物品提供・役務提供等)による協賛が多く含まれており、様々な形でご支援いただいている。今後、同意を得られた協賛者の支援内容を広くPRしていく。
- ・また、広報協力として、成田空港及び羽田空港でのデジタルサイネージを掲出いただく。期間は、11月1日から30日までの1か月間で、選手や関係者の出迎え・見送りを華やかに彩る予定である。

○報告(15)ボランティアについて

(久松委員長)

- ・次に、ボランティアについて、板倉部長より報告させていただく。

(板倉部長)

- ・ボランティアの当選者は 3,500 人。そのうち、5割程度が手話言語でのコミュニケーションが可能と回答している。
- ・原則1人3日間以上、1日あたり5時間～最大8時間程度活動してもらい、主に競技会場やデフリンピックスクエア、開閉会式の会場等で、選手の案内・誘導などを担う。
- ・これまでオンデマンド形式での研修を実施しており、シフト等については 10 月中旬に通知済みである。
- ・アシックス社より提供いただいたピンクのジャケット、T シャツ、ポーチを身に付けて活動していただく。

【意見交換】

(久松委員長)

- ・今回、多くの子どもたちに関心を持ってほしいということがある。そして、多くの企業のご協力をいただいたりメディア等でも情報発信をしたりすることで、デフリンピックについて多くの方々に知っていただく絶好の機会だと思っている。国民全体の関心を高めるということについては、東京都や事業団の皆様にご協力・ご尽力いただいております、この場を借りて改めて感謝申し上げます。
- ・それではここで、出席者の方々から意見をいただければと思う。まず、オンライン参加の石原委員から如何か。

(石原委員)

- ・筑波技術大学の学生、特に聴覚障害系学部の学生は盛り上がっている。あわせて、教職員の中でボランティアに参加する教職員がかなり多く、筑波技術大学は、大会期間中、聴覚障害系の授業はすべて休講とし、学生や教職員など全員が、出場や観戦、ボランティアをできる体制を作っている。
- ・世の中がどれくらいデフリンピックを知っているかということについて、1 か月前よりもかなりマスコミが取り上げてくれており大変ありがたい。もう少し大会が近づくと、もしくは大会が始まると、全国ニュースで取り上げてくれるのではないかと。そうすると、大会後には手話言語や視覚的な情報保障、またろう者のことについての国民の関心は必ず広がっていくだろうと信じている。

(久松委員長)

- ・最近、国民の皆様が非常に高まっていることは実感している。全日本ろうあ連盟の事務所でも大会エンブレムの使用申請など様々な申込みや問合せがある。
- ・筑波技術大学の方でもかなりバックアップしていただいていることは大変嬉しく感謝申し上げたい。

(薬師寺委員)

- ・本当に素晴らしい準備をしていただいていることにまずは感謝申し上げます。
- ・聴覚障害者協会やろう学校、手話サークルの皆様が、地方からバスを使って見学したいが、どこにバスを停めたらいいのかが分からないという問合せが多くある。そのため、どこに問い合わせたらいいのかということを知りやすく広報いただきたい。
- ・各国の宿泊について、国際手話は分かるが英語に長けた人間がいないため、英語で連絡をもらってもなかなか分からないため、できれば国際手話でコミュニケーションをとれるような窓口を設置し

てほしいという声があがっている。それとともに、大会期間中も遠隔手話通訳サービスなどの技術も活用し、なるべく国際手話で相談できたりコミュニケーションが取れたりするような準備をしていただければありがたい。

- ・来年、愛知県でアジアパラ競技大会が開催され、こちらも今準備期間中である。アジアパラの競技の中には聴覚障害の種目はないが、きこえない・きこえにくい方が国内だけではなく世界中から見学に訪れるということもあり、東京 2025 デフリンピックを参考にしたいという意見を多くいただいている。我々としてもレガシーを残すという意味もあるうえ、準備の過程や技術を共有すれば、今後、国内で開催される国際大会がさらに充実していくのではないかな。
- ・大会グッズについても多くの質問をいただく。なにがグッズとしてあるのかなどの質問がある。グッズを集めている方も多いため、どこに行けばどのようなグッズを買えるかなどについて広報いただけるとありがたい。

(北島部長)

- ・バスでの見学については、会場周辺に大型バスを止められる場所がなく物理的に難しく、また仮にバスで来られてしまうと選手を降ろせなくなってしまう。そのため、基本的には公共交通機関を使って観戦に来ていただきたい。このことについては、ホームページや観戦ガイド等様々な場面で周知させていただいており、今後も引き続き周知に努めたい。
- ・国際手話の対応窓口については、時間を指定いただければ用意することを以前より何度も周知しているが、各国選手団から連絡がない状況である。すべての担当者がそこにいるわけではないことなどもあるため、電話すればワッツアップで対応できる体制を 24 時間 365 日用意することは現実的に難しかった。また、コミュニケーションがうまくとれていなかったことも課題としてある。可能な範囲で丁寧に対応してきたが、これらの課題を今後活かしていく。
- ・大会時について、ろうあ連盟で手話通訳者の育成に尽力いただいたが、大会オペレーション上、十分に足りている状況ではない。ただ、手話通訳のレベルをしっかり確認し適切に配置している。また、選手団とのコミュニケーションに関しては、今回、全選手団にリエゾンという専任の職員を配置し、コミュニケーションを取れるようにする予定である。言語は7言語想定しており、中には手話言語ができない職員もいるが、その代わりに英語とそのほかの言語ができる職員を朝の8時から夜の8時まで選手団につけるといように、現場で円滑にコミュニケーションを取れる準備もしている。
- ・視察に関しては、原則受けないことになっているが、基本的に、その大会の次の大会の視察に関しては受けるというのが国際大会の一般的なルールになっている。ただ、アジアパラ競技大会が日本で開催されるため、その関係者である愛知県職員が事業団に来ている。また、実際に、9～10月に多くの愛知県職員に現場を見ていただいたりシャドーイングもやっていたりする。はっきりした目的意識を持った視察であればきちんと対応している。ただ、視察に関しては基本的に行政視察扱いで対外的な自治体間の関係となるため、清水部長より補足説明をお願いしたい。

(清水部長)

- ・今後、様々な国際大会に東京 2025 デフリンピックの経験を活かすということについて、東京 2025 デフリンピックや先般の世界陸上で得た経験やノウハウを今後の様々な大会に繋げていけるような形でしっかり残していく、活用していくことを考えていきたい。アジアパラ競技大会については、特に来年開催ということもあって、愛知県職員を事業団へ派遣いただいております。東京都からもアジアパラの組織委員会へ職員を派遣することで相互に経験を共有していたり、大会時にも名古屋市より視察の依頼が来ていたりするため、我々の得た経験等を伝えることで、次の大会、アジアパラ競技大会へ繋げていければと考えている。

(板倉部長)

- ・グッズについて、協賛社の中で2社、大会エンブレムを使ったグッズを販売する計画がある。まず、インターハイなどでもグッズ販売を行っているヨコブリシ社が、競技会場やデフリンピックスクエア、開閉会式会場などでブースを出展し、大会エンブレム入りの T シャツやタオルなどを販売することになっている。また、日本卓球が卓球会場である東京体育館で大会エンブレム入りのボールや T シャツなどを販売する予定になっている。

(久松委員長)

- ・補足で説明させていただく。
- ・当連盟にも、バスを停める駐車場がどうなっているかという問合せが来ている。東京の特性としてバスを停車できるところがないため、できるだけ公共交通機関を使ってほしいとお願いをしている。問合せがあればそのように伝えているが、窓口としてこちらを伝えていただければ丁寧にお答えしたいと思う。
- ・国際手話の窓口についても色々な課題があるということだが、国際手話での問合せがあれば国際手話で回答するという努力をしており、そのような体制を準備しているところである。こちらについても、そのような問合せがあればこちらに回していただければ丁寧に対応させていただく。国によってそれぞれ文化が異なるため、我々の常識が国によっては通じないということはあるが繰り返し丁寧に心を込めて対応していく。ただそれでも限界があり、繰り返し説明してもご理解いただけない場合はやむなくお断りすることもあるかと思う。文化の違いで齟齬が起りなかなかうまくコミュニケーションができない場合もあるため、そのあたりはご理解いただきたい。

(延興委員)

- ・まずは、ろうあ連盟、東京都、事業団の皆様に感謝申し上げます。参加国数においても人数においても、またスポンサーの、単にお金を出すだけではなく色々部分で大会を盛り上げようと頑張ってくださっていることなど、過去最高の大会になることが約束されているのではないかと思います。
- ・先週、滋賀で全国障害者スポーツ大会があり、これまで何度も障害者スポーツ大会に行っているが、今回行って見て、情報保障のレベルが上がってきていると感じた。今までも、開会式に手話言語通訳があつたりきこえない・きこえにくい方が出る種目の会場には必ず情報保障があつたりしたが、今回はすべての競技会場に手話言語通訳や要約筆記があつたり試合の進捗をボードに文字で書いて知らせたりと非常に充実しており、こんなに情報保障があるのは初めて見た。
- ・また、非常に嬉しかったのが、デフバレーの際にサインエールで応援している方が多くいたことである。東京都だけではなく地元や周辺県の方もサインエールを使って応援していた。また、大会エンブレムの T シャツを着たゆりーとのぬいぐるみを持って各会場で応援していると大変喜ばれ、写真を撮っていいか聞かれたり話しかけられたりした。

(久松委員長)

- ・今回、滋賀の全国障害者スポーツ大会での情報保障のレベルが上がったとお話いただいたが、東京 2025 デフリンピックにおける情報保障の取組は非常に期待される場所であり、現在、事業団がこの部分で努力してくださっているところである。非常に高いレベルであり、過去大会に比べても最も情報保障の良い大会になるのではないかと思います。

(小椋委員)

- ・大会内容や準備等、今日の報告を聞き、非常に感動した。感謝申し上げます。
- ・過去大会に比べても世界一の大会になるのではないかと誇らしく思う。また、各国においても非常に参考になる、また、今後のデフリンピックに繋げられるようなレガシーが残る豊かな大会になると

期待している。特にマスメディアに関して、テレビや新聞に大会情報が多く掲載されるようになってきており、この広報力についても素晴らしいと思う。JRの山手線の車両のラッピングについても驚いた。昨年の11月頃の東京都の調査だと確か39%の認知度だったと記憶しているが、今はだいぶ上がっているのではないかと思うが、最新の認知度について情報があれば教えていただきたい。

- ・ユニバーサルコミュニケーションの取組について、報告の中にあった、スマートグラスを利用することで競技解説を見られるということについて、この技術のイメージがつかめなため具体的な機器の説明をいただければありがたい。

(清水部長)

- ・認知度について、昨年の11月以降、東京都として調査はしていないが、日本財団が全国を対象とした調査を今年の5月に実施している。東京都との数字と単純に比較はできないが、調査時点での認知度は38.4%とのことである。競技会場もあることから、都内はより高い数字になっているのではないかと考えている。
- ・スマートグラスについては、眼鏡をかけるとその向こうに字が見えるというイメージである。どのような文字を出せるか技術的なことに関しては確認が必要だが、東京2025デフリンピックでは観客向けのサービスとして用意するため、日本語の文字が表示される。

(久松委員長)

- ・補足で説明をさせていただく。
- ・昔、日本映画に字幕がない時、レンズがあるカメラのようなものを使い、そこに文字を入れる技術が開発されたが、その技術を応用する形でスマートグラスに活用したのだと思う。音声情報が文字情報としてレンズに入ってくるというようなイメージである。

(松橋委員)

- ・皆様、問合せの対応や準備等、本当にお疲れ様です。様々な取組の説明を聞き、これまでデフリンピックを含め国際大会に出場してきた経験からすごいなと思った部分はランドリー無料券である。過去にこのようなサービスはなかった。毎日競技がある中で、ホテルなどにももちろんランドリーはあるが、治安等のこともあり大切なユニフォームなので、毎日部屋で手洗いしていた経験がある。そのような経験から、ランドリー無料券というのは画期的で日本らしい、また良いおもてなしだなと感じた。
- ・質問が2点ある。まず1点目だが、ろう学校等の体験学習ということで学校数が出ているが、これは全国の学校が対象ということで合っているか。また、どの地域が一番多いのか教えていただきたい。
- ・次に2点目は、トヨタ社より車を100台提供いただけるという話があったが、この運転はどなたが担当するのか、また、運転手を100人準備される想定なのか教えていただきたい。

(倉野事務局長)

- ・ろう学校等の体験学習については、申込みが1つの都道府県に集中せず、全国でばらけていた。町や村など、デフアスリートがいないようなところからの申込みもあり非常に感動している。

(久松委員長)

- ・1年間の中で学校行事の予定が大体決められている中で、体験を入れ込むというのはなかなか難しい部分がある。また、学校で色々な体験をさせたい一方で予算措置も講じながらということがなかなか難しく感じている学校も多いと思うため、予算の悩みがないように助成するなどの支援をすることによって、申込みが全国的に50校あったのではないかと思う。

(北島部長)

- ・トヨタ社の車両の運転について、8割方は専任の運転手を雇っている。ただ、一部、競技関係等で使う車両、例えば自転車競技だと車が伴走するが、その車両は競技団体の方が直接運転する。ま

た、今回全体のオペレーションをJTBが行っているため、JTBの職員が運転することもある。

(渡邊委員)

- ・いよいよ大会まで2週間ということで、大会本番をイメージできる様々な話が出た。2020年の春に久松委員長と最初に都庁の会議室でお話してから、本当に長い間色々なことがあったがここまでやっと来たと感じながら聞いていた。
- ・せっかく日本でデフリンピックを開催するので、1人でも多くの人にデフリンピックやろう者の文化を知ってもらい、見てもらうことが大事であるということから東京都も今まで様々な取組みを実施してきた。最後の残りの時間、さらにアクセルを踏んで取り組んでいるところである。
- ・机前にお配りさせていただいたが、明日から広報東京都11月号が都内全域に250万部配布される。また、先ほどもお話があったが、山手線、京浜東北線、中央線に電車の車体にポスターを貼った車両を走らせているところである。そのほか、10～11月にかけて実施される地域の祭り33か所でブースを出し、観戦に来てもらえるよう直接デフリンピックのことをPRするなど、とにかく会場に観に来ていただけるようありとあらゆることをやっているところである。
- ・11月5日には日本郵政から記念切手も発売されると聞いており、手にした人が、いよいよデフリンピックだなという気持ちが高まってくるのではないかなと思う。
- ・東京都としてはアスリートのことを知ってもらい、アスリートを紹介し、この選手はいつどこで観られるのかということをお知らせする特設サイトを作った。
- ・一方で、今日、具体的な実務の話も多くあったが、いざ始まると、おそらく多くのトラブルが起きると思う。パリ2024オリンピックの時も輸送のバスが来なかったり、選手が交通渋滞に巻き込まれ4時間バスに箱詰めになったりしたという話も聞いたことがあり、やはり色々なことが起きるのだと思う。しかし、それらのトラブルを力を合わせて迅速に解決していくことが大事であり、ぜひ本番に向けて皆様で力を合わせていただきたいと思います。
- ・東京都としても、大会本番に向けて、各局の協力の下、約500人の応援職員を現場に配置するなど、大会が成功するよう取り組むこととしている。
- ・子供たちの観戦についても、多くの子供たちが会場に来る予定になっている。
- ・ろうあ連盟、事業団の皆様をはじめ、現場の方は大変だと思うが、東京都も全力でサポートする。

(久松委員長)

- ・最後に、本日欠席されている畑中委員からご意見を頂戴しているので、代読させていただく。

(畑中委員からの意見)

- ・いよいよ本番直前ですね。運営委員になったばかりの頃は、デフリンピックどころかデフ競技がどのようなものがあるのかも知らない状態だった。今は、競技を観るのが楽しみで仕方がない。
- ・主にコンプライアンス、ガバナンス構築の視点から意見を申し上げてきたが、事務局の方を中心に非常にしっかりと整備して下さったと思う。
- ・どうか無事に、怪我や事故無く終わられることを祈っている。
- ・デフリンピックに関わることが出来て、本当によかった。今後とも、デフ競技を応援していきたいと思っている。

(久松委員長)

- ・大会までまだ2週間ある。気を引き締めて取り組んでいき、東京都、事業団、ろうあ連盟で力を合わせてしっかりと大会運営を進めるべく尽力していく所存である。
- ・先ほど渡邊委員からもお話があったが、東京都に最初に相談した時には、デフリンピックを知ってもらうにはどうしたらいいものか、どのような周知をしたらいいものか、ニュースや新聞、テレビで取り上

げてくれるのだろうかというような話から始まったが、最近ではお断りすることもあるくらい取材申込等があるような状況である。最初はお願いに回った記憶が多くあるが、今では話を持ち込んでくる方が多くなった。話を持ってきていただくということは非常にありがたく思っている。今後も、そのような話に丁寧に答えていくことを積み重ねていく。

- ・大会の成功に向けて、皆様にも力をお借りして頑張ってもらいたいと思う。
- ・倉野事務局長より補足説明がある。

(倉野事務局長)

- ・これまで、亀澤選手や山田選手らを起用した大会の PR ポスターを活用してきたが、このたび、デフリンピック規約で作成が定められている大会公式ポスターを作成した。今回、参考として皆様には A3 サイズのものをお配りしているが、大会期間中、競技会場等に A0 サイズのポスターを貼る予定である。

(久松委員長)

- ・本日皆様からいただいた貴重なご意見を参考に、引き続き大会の成功に向けた準備を進めていく。本日はありがとうございました。